



●全国大会「名古屋」22 発表の内訳

全国大会のプログラムで公開されている66件の研究・作品発表の内訳を紹介します。

5件がカラーデザイン発表、残り61件が研究発表です。分野は、色弁別、測色、画像処理、色覚多様性、照明、顔・表情、嗜好、教育、文化、景観・建築、ファッション、デザインなど実に多彩です。

発表者については、10件がメーカー勤務やフリーランスの方々、残り56件が教育・研究機関の所属です。また International Session で10件の英語発表、発表奨励賞の対象となる若手研究者の発表が15件と、発表者も多様です。今回はオンライン参加も可能なハイブリッド開催です。

皆さまのご参加をお待ちしています。

◆会期：2022/6/25（土）・26（日）

◆会場：〈現地参加〉椋山女学園大学 星が丘キャンパス。〈オンライン参加〉Zoom 利用。

◆参加申込：

<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/#sankatouroku>

前納登録がお得です。前納〆切 5/25（水）。

◆大会情報：

<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/>
(全国大会実行委員会・広報)

●公開講座・色を分ける 色で分ける

日高杏子学会員（芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科准教授）による、対面方式の公開講座の紹介です。大学は対面授業が始まっています。安心してご参加ください。

著書『色を分ける 色で分ける』（京都大学学術出版会）を中心にした、色彩と文化人類学、科学、心理学を話題にする講座です。虹の色数は7色、赤はお湯で青は冷水。私たちは日々の生活の中で当然のように色を分け、また色を使って物事を分類しています。しかし虹の色を2色に分ける文化もある一方、寒色・暖色のように色彩に寒暖を覚える感覚はあまたの文化に共通するようす。一体なながこの普遍性と多様性を分けるのでしょうか。虹の色数の多様性から色の分類の論理、肌の色による人種差別まで、古今東西の事例をもとに人間の色彩文化をひもときます。

◆会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス（港区）

◆日時：6月10日（金）18:00～19:30

◆受講料：1,500円 ◆定員：先着50名

◆申込締切：5月20日（金）

◆申込方法と内容確認は下記のURLでご確認ください。

<https://www.shibaura-it.ac.jp/visitor/public/extensions/otc/22a107.html> （永田泰弘）

●図書紹介 「虫や鳥が見ている世界」

—紫外線写真が明かす生存戦略 浅間 茂著
中公新書 2019年 1000円+税

多くの鳥や昆虫が見ているのに、我々には見えない世界を、360nm前後の紫外線カメラを通して著者が紹介している。

鳥や昆虫は紫外線反射の違いで雌雄を見分け求愛活動に役立てているものが多い。たとえば、モンシロチョウの雄の翅は紫外線を吸収し、雌は反射するのでお互いに分かる。

トカゲは敵に襲われたときに自ら尾を切って逃げるということが知られている。これは紫外線反射が強く動き回る自切した尾に、敵の目を向けさせて本体が逃げる作戦だ。

シチメンチョウは頭から首にかけて色が劇的に七変化することからついた名前だ。興奮すると赤くなる人間とは逆に、平静なときは赤く、興奮すると青、白に変化する。これは血管内のコラーゲン構造の変化による構造色で、赤は紫外線を吸収し、青や白は反射する。

菜の花は真っ黄色だが、紫外線カメラを通すと全然違って見える。花びらは紫外線を強く反射し、おしべは吸収している。モンシロチョウは、花びらの紫外線反射で花に近づき、紫外線の吸収で蜜のありかを知るといふ。動植物の生存戦略の一端を知る一冊。（垣田）